

音楽科の研究の概要

◇ 主題

音楽を形づくっている要素を観点に
批評し合うことを通して、
音楽のよさや美しさを見いだす授業

◇ キーワード

「展覧会の絵」
鑑賞ガイド
対話を可視化する模造紙



和田 麻友美

1 題材名

鑑賞「音楽と絵をかかわらせて鑑賞しよう」(2年)

教材：組曲「展覧会の絵」より

(ムソルグスキー作曲・ラヴェル編曲 管弦楽版)

「プロムナード」「第1曲 グノーム」

「第5曲 卵の殻をつけたひなどりのパレエ」

「第9曲 鶏の足の上の小屋」

「第10曲 キエフの大門」

◇ 育てたい生徒像

音楽を形づくっている要素を観点に楽曲を分析し、仲間とかかわりながら自らの考えを広げたり、深めたりして、音楽のよさや美しさを見いだすことができる生徒



2 目標

楽器の音色やリズム、旋律、速度、強弱といった音楽を形づくっている要素を観点に、音楽と絵を関係付けて鑑賞することを通して、次のことができる。

- ・ 組曲「展覧会の絵」の特徴をとらえ、音楽のよさや美しさを見いだすこと
- ・ 見いだした音楽のよさや美しさを踏まえ、ムソルグスキーの作曲意図を「鑑賞ガイド」にまとめて仲間に伝えること

3 具体的な手だて

1. 意味ある文脈での課題設定

組曲「展覧会の絵」を絵とともに提示し、自身の感じたことと音楽とのずれを感じさせる教材構成とする。

授業の実際

作曲者のムソルグスキーやモチーフになった絵の作者ガルトマンについて、そのころのロシアの様子、曲ができる経緯の情報を紹介

4枚の絵を見せた後、音楽を聴かせ、どのような組み合わせになるか、音楽を聴いて感じたことを基に予想

なぜムソルグスキーはこの絵を見て、この曲を作曲したのだろうか。

課題 - ムソルグスキーはどのような意図をもって、組曲「展覧会の絵」を作曲したのだろうか。

2. 対話を促す工夫

組曲「展覧会の絵」より各自が選んだ1曲についてのよさを見いだすために、お互いの意見を可視化する模造紙を提示する。



- ・必要に応じて音楽を聴くことができる環境 (タブレット端末)
- ・楽譜、絵の事実立ち戻って検討する

授業の実際

組曲から、興味のある1曲を選択して、個人追求する。
(音楽を形づくっている要素と絵とその背景を関係付けて、特徴をとらえる)

↓
個人追求したもの+仲間の気づきについて検討を行い、新たな音楽のよさや美しさを見いだす。

3. メタ認知を促す工夫

仲間との対話や、ワークシートに加筆したメモを振り返ることを通して、作曲者の意図を「鑑賞ガイド」に書いたり、それを仲間へ発信してコメントをもらったりする活動を組織する。

授業の実際

授業の振り返り、仲間との検討によって見いだした新たな音楽のよさなどを整理し、「鑑賞ガイド」にまとめる。

↓
まとめた「鑑賞ガイド」を基に、仲間へ発表、それぞれの曲を改めて鑑賞。

